

妊婦・褥婦の尿失禁に対する意識と行動 —妊娠期および産褥1ヵ月検診時における—

山崎章恵¹⁾, 宮田久枝²⁾, 湯本敦子¹⁾, 飯沼博朗¹⁾

The consciousness and behavior of urinary incontinence

with pregnant and puerperal women :

During their pregnancy and on one month after delivery.

The purpose of this study was to examine the consciousness and behavior of urinary incontinence of pregnant and puerperal women.

Results were as follows :

1. Multiparas with urinary incontinence had shy and dirty senses.
2. Pregnant and puerperal women thought that there were nothing they could do about urinary incontinence in order to have a baby.
3. They consulted with their husband and own mother, and multiparas consulted more often with doctors than primiparas.
4. There were few that they performed the exercise of pelvic floor muscles in order to prevent urinary incontinence, but women with urinary incontinence did it.

Key Words :

Urinary incontinence (尿失禁), Pregnant women (妊婦), Puerperal women (褥婦), Consciousness (意識), Behavior (行動)

はじめに

尿失禁は女性に多く, 40歳代から増加するという報告がある¹⁾. また, 妊娠・分娩との関連が指摘され^{1,2)}, 分娩回数が増えるほ

ど尿失禁の発症が増すことも報告されている³⁾. 妊娠中は体重が増加し, 腹圧がかかった時に尿失禁を起こしやすいが⁴⁾, 一時的なものと考えられ, むしろ分娩直後は尿閉による排尿障害が問題とされることが多い^{5,6)}と

1) 信州大学医療技術短期大学部看護学科; YAMAZAKI Akie, YUMOTO Athuko, IINUMA Hiroo, Dept. of Nursing, School of Allied Medical Sciences, Shinshu Univ.

2) 滋賀医科大学医学部看護学科; MIYATA Hisae, Faculty of Nursing, Shiga Univ. of Medical Science.

いわれている。1991年から電話相談を行っている日本コンチネンス協会によると、相談者は女性が男性に比べて4倍で、特に40歳代の経産婦からが多いと報告されている⁷⁾。妊娠・分娩に関連した尿失禁は、このように女性のライフサイクルを通じた尿失禁の問題に発展する可能性があるのではないかと考えた。

そこで、妊娠・産褥期の尿失禁の実態と妊婦・褥婦の尿失禁に対する意識と行動について明らかにする目的で調査した。尿失禁の実態についてはすでに報告したので^{8,9)}、尿失禁に対する意識と行動について分析し報告する。

研究方法

1. 調査期間:平成8年8月15日～9月20日。
2. 調査対象:調査期間中に長野県下8施設の外来に受診している妊婦と1ヵ月検診に訪れた褥婦。
3. 調査方法:質問紙を外来受付で手渡し、待ち時間に記入してもらい回収した。
4. 調査項目:年齢、産科歴、現在の尿失禁の有無と症状、現在行っている対処、骨盤底筋体操の実施、尿失禁に対する意識について記入してもらった。尿失禁に対する意識については、「予想外の出来事だと思う」、「子どもを産むために仕方がない」、「不潔」、「恥ずかしい」について、「全くその通り」「その通り」「どちらでもない」「違う」「全く違う」の5段階尺度を用いた。

結果

調査票の回収数1257、回収率96.1%。うち有効回答は866、有効回答率68.9%。対象者の内訳は、妊婦は754名87.1%で、分娩後40日までの褥婦は112名12.9%。妊婦のうち、

初産婦は531名70.4%で、経産婦は223名29.6%。経産婦は1回経産158名70.9%、2回以上65名29.1%であった。対象者の年齢は、19歳から46歳、平均29.7歳。

1. 妊娠期および産褥期の尿失禁について

初産婦妊娠中（以下初産婦）で「尿失禁有り」は、531名中157名29.6%であった。一方、経産婦妊娠中（以下経産婦）で「尿失禁有り」は、1回経産婦154名中70名45.5%、2回以上の経産婦61名中31名50.8%で、発症率に有意差があり、分娩回数が多い程発症率が高かった。産褥期においては、初回分娩後51名中8名15.7%、2回分娩後33名中6名18.2%、3回分娩後22名中5名22.7%が「尿失禁有り」で、分娩経験を重ねるほど、発症率が高い傾向がみられた。

尿失禁の症状については、初産婦は、各期とも「腹に力が入った時にもれる」という腹圧性尿失禁と思われる症状が約9割を占めていた。この傾向は経産婦も同様であった。また産褥期においても腹圧性尿失禁と思われる症状が最も多かった。

尿失禁の程度は、初産婦では「ときどき」が68名43.3%で最も多かった。経産婦でも、「ときどき」が1回経産33名47.1%、2回経産18名58.1%と最も多かった。

尿失禁の対処については、初産婦では、「特に何もしていない」が、29名18.5%であった。経産婦では、1回経産2名2.9%、2回以上の経産2名6.5%であった。対処法で最も多かったのは、初産婦、経産婦ともに「下着を換える」で、初産婦82名52.2%、1回経産52名74.3%、2回以上の経産で22名71.0%であった。

2. 尿失禁に対する意識について

尿失禁に対する意識についてきいた結果を「全くその通り」「その通り」を「その通

表1 予想外な出来事と思う意識

尿失禁	初産婦（妊娠中）			計
	その通り	どちらでもない	違 う	
有 り	67 (47.2)	42 (29.6)	33 (23.2)	142 (100.0)
無 し	138 (42.1)	140 (42.7)	50 (15.2)	328 (100.0)

$\chi^2=8.57$ $p<0.05$

尿失禁	経産婦（妊娠中）			計
	その通り	どちらでもない	違 う	
有 り	47 (54.0)	28 (32.2)	12 (13.8)	87 (100.0)
無 し	39 (40.6)	38 (39.6)	19 (19.8)	96 (100.0)

$\chi^2=3.41$

尿失禁	褥 婦			計
	その通り	どちらでもない	違 う	
有 り	9 (52.9)	5 (29.4)	3 (17.6)	17 (100.0)
無 し	31 (43.1)	27 (37.5)	14 (19.4)	72 (100.0)

$\chi^2=0.57$

表2 子どもを生むために仕方がないと思う意識

尿失禁	初産婦（妊娠中）			計
	その通り	どちらでもない	違 う	
有 り	130 (83.3)	23 (14.7)	3 (1.9)	156 (100.0)
無 し	263 (76.0)	75 (21.7)	8 (2.3)	346 (100.0)

$\chi^2=3.45$

尿失禁	経産婦（妊娠中）			計
	その通り	どちらでもない	違 う	
有 り	73 (81.1)	14 (15.6)	3 (3.3)	90 (100.0)
無 し	70 (68.0)	29 (28.1)	4 (3.9)	103 (100.0)

$\chi^2=4.58$

尿失禁	褥 婦			計
	その通り	どちらでもない	違 う	
有 り	13 (81.3)	3 (18.8)	0 (0.0)	16 (100.0)
無 し	58 (75.3)	15 (19.5)	4 (5.2)	77 (100.0)

$\chi^2=0.89$

表3 不潔だと思ふ意識

尿失禁	初産婦 (妊娠中)			計
	その通り	どちらでもない	違 う	
有 り	64 (44.8)	44 (30.8)	35 (24.5)	143 (100.0)
無 し	96 (30.0)	133 (41.6)	91 (28.4)	320 (100.0)

$$\chi^2=9.80 \quad p<0.01$$

名 (%)

尿失禁	経産婦 (妊娠中)			計
	その通り	どちらでもない	違 う	
有 り	47 (53.4)	32 (36.4)	9 (10.2)	88 (100.0)
無 し	24 (25.0)	41 (42.7)	31 (32.3)	96 (100.0)

$$\chi^2=20.35 \quad p<0.001$$

名 (%)

尿失禁	褥 婦			計
	その通り	どちらでもない	違 う	
有 り	8 (37.5)	5 (29.4)	4 (23.5)	17 (100.0)
無 し	25 (36.8)	22 (32.4)	21 (30.9)	68 (100.0)

$$\chi^2=0.65$$

表4 恥ずかしいと思ふ意識

尿失禁	初産婦 (妊娠中)			計
	その通り	どちらでもない	違 う	
有 り	54 (37.5)	56 (38.9)	34 (23.6)	144 (100.0)
無 し	105 (32.6)	136 (42.2)	81 (25.2)	322 (100.0)

$$\chi^2=1.06$$

名 (%)

尿失禁	経産婦 (妊娠中)			計
	その通り	どちらでもない	違 う	
有 り	51 (57.3)	25 (28.1)	13 (14.6)	89 (100.0)
無 し	24 (25.2)	43 (45.3)	28 (29.5)	95 (100.0)

$$\chi^2=19.80 \quad p<0.01$$

尿失禁	褥 婦			計
	その通り	どちらでもない	違 う	
有 り	7 (41.2)	6 (35.3)	4 (23.5)	17 (100.0)
無 し	30 (44.1)	25 (36.8)	13 (19.1)	68 (100.0)

$$\chi^2=0.16$$

り」群とし、「違う」「全く違う」を「違う」群として妊娠中の初産婦と経産婦、褥婦について χ^2 検定を用いて意識の違いをみた。

尿失禁を「予想外の出来事」という意識については、初産婦、経産婦、褥婦ともに「その通り」と答えた人の割合が高く、尿失禁の有無に関わらず尿失禁を予想外の出来事と考えている人が多かった。しかし、初産婦では「予想外の出来事とは違う」すなわち「予想できる出来事」と考えている人が有意差をもって多く、意識の違いがみられた(表1)。

尿失禁を「子どもを産むために仕方がない」という意識については、初産婦、経産婦、褥婦ともに「その通り」と答えた人の割合が高く、いずれも有意差はみられなかった。ごくわずかな人を除いては尿失禁は子どもを産むためには仕方がないことと考えられていた(表2)。

尿失禁を「不潔」だと思いう意識については、初産婦、経産婦では尿失禁有りの方が「その通り」と答えた割合が高く、不潔だと感じている人が多かった。しかし、褥婦では尿失禁の有無に関わらず意見が分かれており、意識の違いはみられなかった(表3)。

さらに尿失禁を「恥ずかしい」という意識については、初産婦と褥婦では尿失禁の有無にかかわらず意識の違いがみられなかった。しかし、経産婦では、尿失禁有りの方が「その通り」と答えた人の割合が有意に高く、恥ずかしいと思っている人が多かった(表4)。

3. 尿失禁に対する行動

尿失禁を相談したことがあるかどうかと尿失禁の予防・治療としての骨盤底筋体操の実施について調査した。

「尿失禁について相談したことが有る」の

表5 尿失禁が起こったときの相談相手
名(%)

	初産婦	経産婦	褥婦
尿失禁有症者	157	101	19
相談した人	41 (26.1)	36 (35.6)	8 (42.1)
夫	16 (44.4)	12 (35.3)	2 (10.5)
友人	9 (25.0)	4 (11.8)	1 (5.3)
実母	13 (36.1)	15 (44.1)	6 (31.6)
姉妹	4 (11.1)	5 (14.7)	1 (5.3)
助産婦	1 (2.8)	2 (5.9)	1 (5.3)
医師	3 (8.3)	7 (20.6)	1 (5.3)

(複数回答あり)

は、尿失禁が有りの初産婦41名26.1%、経産婦36名35.6%、褥婦8名42.1%であった。誰に相談したかについては、初産婦は「実母」が最も多く、ついで「夫」「友人」であった。経産婦でも「実母」「夫」の順であるが、ついで多かったのは「医師」であった。褥婦においては最も多いのが「実母」であり、ついで「夫」であった。いずれの場合も相談するのは実母と夫が多かった(表5)。

骨盤底筋体操の実施状況については、「週1~2回している」、「週3回以上」、「毎日している」を骨盤底筋体操実施群とし、「全くしていない」、「以前していたが、今はしていない」を実施していない群として、 χ^2 検定を用いて検討した(表6)。初産婦、経産婦、褥婦ともに尿失禁の有無にかかわらず、ほとんどの人が骨盤底筋体操を実施していなかった。実施している人を見ると尿失禁有りの方が割合が高く、初産婦、経産婦ともに有意な差がみられた。しかし、初産婦に比べて、経産婦の方が骨盤底筋体操を実施している人の割合が減少していた。褥婦においても、尿失禁有りの方が骨盤底筋体操を実施している傾向がみられたが、実施状況に有意の差はみられなかった。

表6 骨盤底筋体操実施状況
名 (%)

尿失禁	初産婦 (妊娠中)		計
	している	していない	
有り	28(18.2)	126(81.8)	154(100.0)
無し	36(9.9)	326(90.9)	362(100.0)

$$\chi^2=6.74 \quad p<0.01$$

尿失禁	経産婦 (妊娠中)		計
	している	していない	
有り	10(10.1)	89(89.9)	99(100.0)
無し	2(1.8)	110(98.2)	112(100.0)

$$\chi^2=5.31 \quad p<0.05$$

尿失禁	褥婦		計
	している	していない	
有り	6(33.3)	12(66.7)	18(100.0)
無し	11(12.4)	78(87.6)	89(100.0)

$$\chi^2=3.48$$

考 察

一般に排泄に関しては、「恥ずかしいこと」「汚いもの」とする意識が強く、老人の尿失禁については「年のせいでは仕方がない」と考えられていることが積極的な予防や対処行動につながっていないことが明らかになっている¹⁰⁾。本調査における妊娠中の初産婦および経産婦、褥婦の尿失禁に対する意識は、「予想外の出来事」であるが、「子どもを生むためには仕方がない」というものであった。また経産婦で尿失禁を経験している人は、「不潔」、「恥ずかしい」という意識が強いことが明らかになった。多くの妊婦・褥婦は尿失禁を一時的なことと考え、あきらめていることがうかがわれた。これは妊娠期・産褥期ともに腹圧性尿失禁が多く、程度が軽度な場合が多いためとも思われた。このような

ことが関連し、尿失禁を相談する相手も実母や夫が多く、助産婦や医師にはほとんど相談していない結果につながっていると思われる。しかし尿失禁の有症率が高い経産婦では医師に相談する人が初産婦よりも多く、何らかの専門的対応を望む人が増えていると考えられる。

腹圧性尿失禁に対しては骨盤底筋体操の効果が明らかにされている^{11,12)}。しかし骨盤底筋を収縮させる方法を習得しないと効果が得られなかったり、毎日一定の運動を継続しなければならぬため、生活が多忙になると継続が困難になることが問題点としてあげられている。本調査では、骨盤底筋体操を実施していた人は少なかったが、実施していた人は尿失禁有症者が多かった。これは予防というよりも尿失禁があるためにその症状を軽減するために行っていると考えられる。経産婦は初産婦よりも骨盤底筋体操を実施している人が減少していた。経産婦は育児などで初産婦よりも時間的余裕が少ないことが考えられ、実施を困難にしていると思われる。妊娠中期は尿失禁が発症しやすい時期であり、その頃に妊婦体操の指導が行われることが多いため、尿失禁の予防・改善という点からもできるだけ早期に、骨盤底筋体操の実施指導をする必要があると考えられる。特に尿失禁を経験している経産婦は、「子どもを生むためには仕方がない」とことと思いつながらも、「恥ずかしい」、「不潔」だと感じている。分娩経験を重ねた経産婦は、中高年になってからも尿失禁の有症率が高いといわれているため、特に積極的な骨盤底筋体操の指導が必要と考えられる。

まとめ

妊婦、褥婦の尿失禁に対する意識、行動は

以下のものであった。

- ①尿失禁は子どもを産むために仕方がないと思っている。
- ②経産婦で尿失禁がある人は羞恥心が強く、不潔だと思っている。
- ③尿失禁について相談する人は実母や夫が多かったが、経産婦は医師に相談した人が増えていた。
- ④骨盤底筋体操を予防的に実施している人は少なく、すでに尿失禁がある人が行っていた。

おわりに

女性の尿失禁は、妊娠・分娩と深く関わっているが、妊婦や褥婦の問題意識は低く、積極的な予防活動はなされていない。単に妊娠・分娩にかかわる問題のひとつとしてだけでなく、女性のQOL向上という観点からも妊娠期・産褥期の医療者側の積極的な尿失禁の保健予防活動が必要と考えられる。

文 献

- 1) 福井準之助：女性尿失禁の疫学的調査，日本泌尿器科学会誌，77（5）：707-710, 1986.
- 2) 続多香子，瀬尾喜久雄，久保隆：就労女性における尿失禁の実態，臨床泌尿器科，45（7）：483-486, 1991.
- 3) 上原茂樹他：妊娠中および産後における

尿失禁についての検討，産科と婦人科，10：1511-1516, 1993.

4) Christine S Norton : Aid to continence for the physically disable : Nursing for continence Beconsfield Publishers LTD, London, 1986

5) 進純郎，小西英喜，荒木勤：妊娠・産褥期の排尿障害と尿失禁，産婦人科の実際，45（7）：799-803, 1996.

6) 石河修他：尿失禁・尿閉，ペリネイタルケア，11（3）：7-15, 1992.

7) 西村かおる：女性の排尿障害の現状，産婦人科の実際，45（7）：729-734, 1996.

8) 宮田久枝他：妊娠期・分娩後1か月時での尿失禁の現状調査より分かったこと，助産婦雑誌，51（2）：30-33, 1997.

9) 山崎章恵他：妊娠期および産褥1ヵ月検診時における尿失禁の実態，日本母性衛生学会誌投稿中.

10) 山崎章恵：高齢者の尿失禁に対する態度についての検討，信州大学医療技術短期大学部紀要第22巻：95-108, 1996.

11) 福井準之助他：女性尿失禁の保存的治療成績，日本泌尿器科学会誌，81：1700-1705, 1990.

12) 加藤久美子他：骨盤底筋訓練による腹圧性尿失禁の治療，日本泌尿器科学会誌，83：498-504, 1992.

受付日：1997年10月13日

受理日：1997年11月26日